

塗装略号：2-ASE

塗装仕様：遮熱弱溶剤型シリコン仕上（塗り替え）

上塗塗料名：115L シャネツロック弱溶剤型 屋根用2000番級

規格：—

素材：亜鉛メッキ鋼板（トタン）

部位：屋根

工程	塗料と施工内容	シンナー名 希釈率%	標準塗付量 kg/m ² ・回	標準膜厚 μm・回	塗り重ね 可能時間 h (20℃)
1	素地調整				
	旧塗膜ではがれかかった部分、フクレ部分等は皮スキ、ワイヤーブラシ等のケレン具で、浮き塗膜、サビなどは電動工具、手工具で除去する。「2種ケレン」 チョーキングした面、汚れ等はサンドペーパーや高圧水洗浄等で除去し、乾燥した清浄面とする。				
2	下塗				
	2液型 サビカット（赤サビ色） （JASS18 M-109 相当品）061-7530 主剤 061-7910 硬化剤 配合比（重量）主剤9：硬化剤1 塗装方法 ハケ、ローラー、スプレー 塗装回数 1回 塗布面積 106～123m ² /16kgセット	016-0059 塗料用シンナー ハケ、ローラー 0～5 スプレー 5～10	0.13～0.15	40	4h以上 7日以内
3	上塗				
	シャネツロック弱溶剤型 屋根用 115 #2000 標準常備色 主剤 115-2140 硬化剤 配合比（重量）主剤9：硬化剤1 塗装方法 ハケ、ローラー、スプレー 塗装回数 2回 塗布面積 115～135m ² /15kgセット・回	016-0059 塗料用シンナー ハケ、ローラー 5～15 スプレー 15～20	0.11～0.13	30	2以上

※塗付量は被塗物の形状、素材、塗装方法などによって多少異なります。

特長

- ・遮熱効果のある省エネルギー環境負荷低減型塗料です。（ヒートアイランド対策）
- ・2液反応硬化型塗料ですから耐候性・耐久性にすぐれています。
- ・塗料用シンナーで希釈できるため、旧塗膜を侵しません。
- ・特殊浸透型エポキシ樹脂の使用で、2種ケレン金属面に対する付着、浸透性に優れます。

施工上の要点および注意事項

- ・塗料はよくかき混ぜ、均一にしてから使用してください。
- ・気温が低い時、湿度が高い場合には完全な塗膜ができにくく、十分な性能を発揮できませんので、気温5℃以下、湿度85%以上での塗装はさけてください。
- ・降雨、降雪、強風などの場合、また、天候不良の恐れがあるときの塗装はさけてください。
- ・乾燥過程で、霜、夜露等の影響を受ける恐れがある時間帯の塗装は避けてください。
- ・必ず高圧水洗浄、ブラシ等により水洗浄を行い、塗る面のゴミ、かび、こけ、油分、砂、枯れ葉などの汚れや、はがれかかった塗膜を確実に取り除いてください。
- ・先に塗りにくいところを塗ってから、また高い所から下の方に塗り場を確保しながら塗ってください。作業時の安全には十分注意し、高所で作業される場合は、安全ロープをかけてください。
- ・有機溶剤を含有していますので、塗装作業中及び乾燥時の換気と火気厳禁を守ってください。
- ・塗料の希釈には、必ず016-0059塗料用シンナーを使用してください。必要以上に希釈するとタレや色分れの原因になります。
- ・上塗り塗料の塗装用品洗浄にはラッカーシンナーを使用してください。
- ・溶接接合部や下塗りにキズがある場合は、その部分が塗膜不良となりやすいので素地調整後、補修塗装を行ってから塗装してください。
- ・2液型塗料は、主剤と硬化剤を所定の配合比で混合し可使時間内に使用してください。
- ・シャネツロック弱溶剤型の可使時間は7時間（20℃）、4時間（30℃）です。
- ・2液型サビカットの可使時間は、5時間（20℃）、3時間（30℃）です。
- ・2液型サビカット硬化剤は、アミンフリード性の少ない、主剤との相溶性に優れたアダクトタイプですが、施工時及び硬化するまでの間、低温（5℃以下）になる個所での使用はできません。
- ・素地が直射日光などで極端に熱くなっているときは塗装を避け、少し冷えてから塗装してください。
- ・改修塗装の場合、素地の種類によって塗膜不良となる事があります。あらかじめ適切な処理を行い、試し塗りを行った後仕様を決めてください。
- ・各工程の塗装間隔や塗付量、希釈量を守らなかった場合塗膜不良となることがあります。また、各工程において当社指定以外の材料を使用した場合は十分な性能が得られないことがあります。
- ・2液型サビカットには061-7530（赤サビ色）以外に061-7531（グレー）と061-7532（ホワイト）があります。
- ・115ライン シャネツロック 屋根用 標準常備色は、5色あります。また調色を行う際には、115ライン シャネツロック弱溶剤型 原色またはロックトーンカララント#3000（5%以内）を使用してください。
- ・建物等における遮熱・断熱性については、窓などの開口部による影響が大きく、壁面等の断熱材だけでは十分な効果が得られない場合があります。より十分な効果を得るために、高断熱性窓ガラスの使用（ペアガラスや真空ガラスなど）や、屋根裏、床下などの隙間をできるだけなくすなどの方法をあわせてとることをお勧めします。
- ・掲載されている塗料の詳細な使用方法については、それぞれのカタログをご参照ください。

○労働災害事故防止のため製品安全データシート（MSDS）をご参照ください。